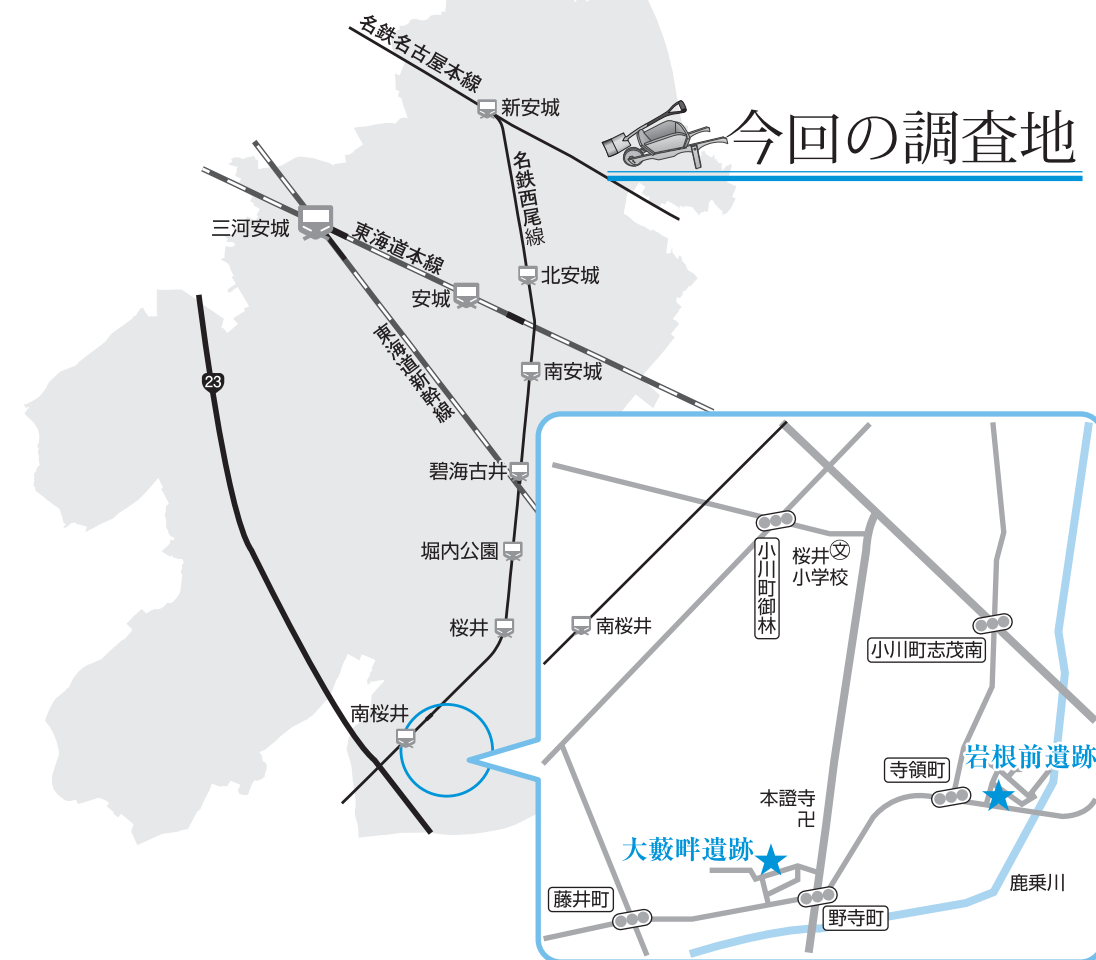


発見!! 安城の歴史

今回の調査地



本市では、250力所を超える遺跡を確認しています。昨年度、埋蔵文化財センターでは、発掘調査10件、試掘調査26件を実施しました。そのうち2件の調査成果を紹介します。

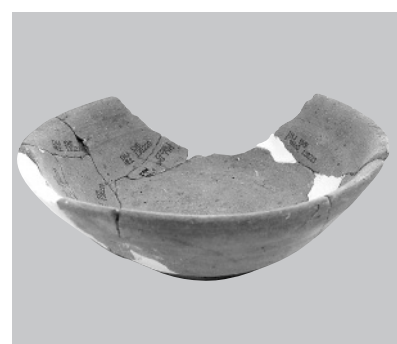
岩根前遺跡(小川町)

この遺跡は、寺領廃寺跡と岩根城址の中間にあります。寺領廃寺は、奈良時代に建てられ、平安時代前期まで存続した、碧海郡の中心的な寺院でした。過去の調査では、講堂や金堂などを確認しています。岩根城址は、室町時代～戦国時代初期の城館跡です。

岩根前遺跡の調査で、近接する二つの史跡の歴史を知る手がかりを発見しました。

寺領廃寺と関わりある集落の存在を発見

寺領廃寺と掘立柱建物が確認できました。いずれも奈良時代末～平安時代初期のものでした。



須恵器の碗

掘立柱建物は、一辺3mの四角形で、東の壁際にあるカマドからは、奈良時代末頃の須恵器の碗や土師器の甕などが出土しました。

掘立柱建物は、縦3m、横4.5mの大きさで、倉庫などに使われていたと考えられます。

どちらも寺領廃寺の建物と同じように、南北に沿って建てられていることから、寺院と強い関わりを持つ集落の存在がうかがえます。

岩根城築城の手がかりを発見

鎌倉時代中頃～室町時代の建物跡の一部と思われる、柱穴が

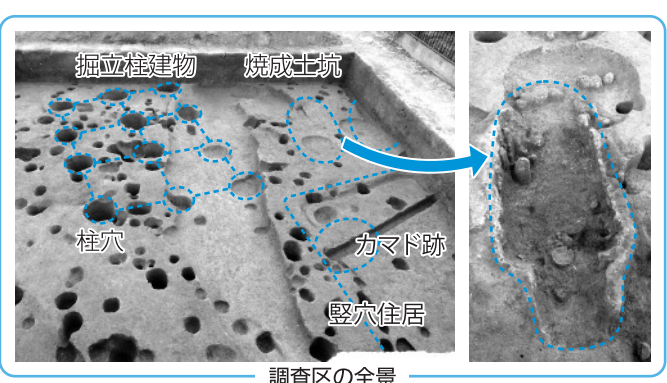
大藪畔遺跡(野寺町)

たくさん見つかりました。建物の規模は分かりませんが、何棟か建っていたようです。柱穴からは、常滑産の甕や山茶碗、高級品であった中国産青磁なども出土しました。また、細長い楕円形の両端に、突起がついたような形の焼成土坑を2基発見しました。大きさは、幅50cm・長さ2mで、薪の燃えカスや焼けた土・壁が残っていました。

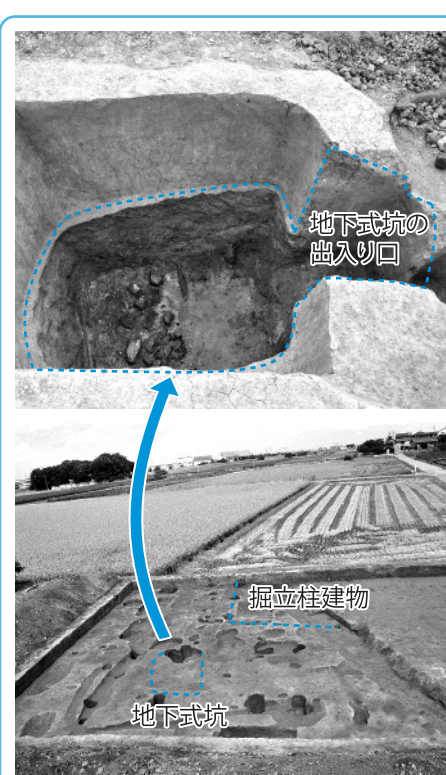
これらの建物や出土品は、岩根城ができるまでの歴史を考える上で、重要な発見となりました。

謎の地下室を発見

調査の結果、地下式坑や土坑など、室町時代の遺物が確認できました。地下式坑は、幅1.4m、長さ1.7m、深さ1mの地下室。出入口は、約30cmの石が5個



調査区の全景



調査区の全景



天目茶碗

遺跡の近くには、鎌倉時代に建てられたと伝わる西三河地方の中心的な真宗寺院、本證寺があります。この寺は、境内の周りに土塁や堀を二重に巡らせ、城のような構えをしていました。500年近く経った今でも、土塁や堀の跡を見ることが出来ます。今回の調査で、本證寺周辺の歴史を知る手がかりを見つけることができました。

調査にご協力を

遺跡は、私たちの祖先の歩みを記憶した、かけがえないものです。一度壊されてしまうと、二度と元に戻りません。本市では、開発でやむを得ず壊される遺跡を、事前に発掘調査しています。周知の遺跡内および隣接地を開発工事する時は、文化財課までご相談ください。

調査成果の展示

今回紹介したものは、埋蔵文化財センターで展示しています。調査や出土品を紹介するパンフレットも無料で配布していますので、ぜひご覧ください。

●展示日時 (火)～(日)午前9時～午後5時
※祝日の翌日、年末年始を除く。

